

宇電懇ニュース

宇宙電波懇談会事務局発行
(名古屋大学理学部)

目 次

- I. 国立天文台電波天文学専門委員(台外)の選挙について
- II. 電波天文学専門委員の選挙にあたって (田原博人)
- III. 宇電懇運営委員会, 総会(10月13日)のお知らせ
- IV. 電波天文学専門委員会議事録
- V. 宇電懇シンポのお知らせ
- VI. 事務局からのお知らせ

1. 国立天文台電波天文学専門委員(台外)の選挙について

電波天文学専門委員会は、台外(7名)と台内(8名)より構成されており、今回の選挙は台外委員を選挙するものです。

下記のような要領で選挙を行います。

- 被選挙権 : 国立天文台に属していない人
連 記 : 7名
締 切 : 10月9日(金) 必着 宇電懇事務局あて
投票方法 : 投票用紙は本ニュースの最後のページにあります。
このページのみ切り取ってご使用下さい。なお、宇電懇事務局の角印のないものは無効となりますので
ご注意下さい。
内封筒(薄い方)に投票用紙を入れて封をし、更に外封筒に入れて宇電懇事務局まで送付して下さい。

II. 電波天文学専門委員の選挙にあたって (田原博人)

国立天文台の第II期各種委員の任期が近づき、間もなく第III期が発足しようとしています。

宇電懇としても、電波天文学専門委員会、運営協議委員会委員、関連委員の推薦をしたいと考えています。従来の方針では、電波天文学専門委員の天文台外委員約7名は宇電懇会員の直接選挙に基づき、運営委員会で若干の調整をし推薦し、運営協議会委員他は宇電懇運営委員会で推薦してきました。

今回も前回と同様にしたいと考えていますので、選挙して頂くのは電波天文学専門委員(台外委員)約7名です。運営協議委員会委員他の候補は宇電懇運営委員会(10月の学会時)で選出したいと考えています。

電波天文学専門委員の選挙にあたり、参考までに、宇電懇運営委員会などで話題となっていた内容を紹介し、選挙の参考にして頂ければと思います。

宇電懇としては、委員の任期を何期までにするか具体的に検討はしていませんが、あまり長期連続するよりはフレッシュな人材が選ばれることも大切と考えます。また選挙にあたっては、地域性、専門分野のバランスも配慮願えればと考えています。

参考までに、I期及びII期の台外委員を紹介すると以下のようになっています。

奥田 治夫 (宇宙科学研究所)	I期
小暮 智一 (当時京都大学)	I期、前身のNRO共同利用委員会委員
小杉 健郎 (当時東京大学)	I期
祖父江義明 (東京大学)	I期・II期
田原 博人 (宇都宮大学)	I期・II期、前身のNRO共同利用委員会委員
土佐 誠 (東北大学)	I期・II期
長谷川哲夫 (東京大学)	II期
平林 久 (宇宙科学研究所)	II期
福井 康雄 (名古屋大学)	I期・II期

電波天文学委員の主な役割は、

- ・野辺山電波観測所の運営に関する重要事項
将来計画の検討、概算要求、事業計画、人事の進め方
共同利用のあり方
- ・観測プロポーザルの運営、審査・NRO研究員の選考
- ・その他基本方針の審議

の審議となっています。今後の大きな問題としては、さらに大型ミリ波望遠鏡をはじめ、サブミリ波、スペース等の各計画の推進の他に、太陽電波の研究体制(電波の中に位置づけるか、太陽物理として位置づけるか)の検討があります。

なおこの文書は、宇電懇運営委員長(田原)が起草し、委員の了解を得たものです。

III. 宇電懇運営委員会、総会のお知らせ

宇電懇運営委員会

日時：10月13日(火) 12:00～13:00(昼食用意します)

会場：名古屋大学理学部物理会議室(理学部C館C-422)

宇電懇総会

日時：10月13日(火) 学会講演終了後

会場：名古屋大学理学部物理会議室(理学部C館C-422)

- 議題： 1) 国立天文台電波天文学専門委員の推薦について
2) 宇電懇シンポについて
「これからの宇電懇」(仮題)
3) その他

IV. 電波天文学専門委員会議事録

国立天文台が大学共同利用機関として発足した際、分野毎に外部の専門家が加わった専門委員会がつけられました。電波天文分野(電波天文学研究系・野辺山宇宙電波観測所・野辺山太陽電波観測所)には、電波天文学専門委員会がつけられ、年4回開催されています。委員は2年任期で、12月に任期が始まります。台外委員6名、台内委員6名、その他2名です。年4回のうち、8月末には毎年野辺山で1泊2日でじっくり時間をかけた議論が行えるようになっていきます。今年は8月26日～27日に開催されました。これが今期(第2期)最後の委員会となります。以下にその議事のメモをまとめました。(文責：柴崎清登)

日時：1992年8月26日13時～18時、27日9時～12時

場所：NRO輪講室

出席者：田原、平林、土佐、祖父江、福井、古在、森本、鯉目、石黒、稲谷、井上、柴崎、浮田、森田、長本

報告：

1. 台内状況

平成5年度概算要求 サブミリ波部門、技術開発センター人員、等

平成4年度補正予算要求 すばる、等。来年度予算の先取り。

建物 共同利用宿舍、等

すばる起工式が7月6日にハワイで行われた。

2. 所内状況(ユーザーズミーティング資料参照)

NRO研究会・WS、共同利用、干渉計230GHz化と6素子化等。

”論文が出版されたら台長に別刷りを!”

3. 電波ヘリオグラフ進行状況

4月23日 最初の10秒角分解能写真

5月29日 電波ヘリオグラフ完成記念式典(＋宇宙電波観測所十周年)

6月末より 定常観測

4. その他

VSOP アンテナ10m ϕ →8m ϕ 。

22GHz用クーラーを搭載しない。

相關器補正予算で要求。1995年8月打ち上げ予定。

水沢 10mの立ち上がり状況。

鹿児島 6m移設計画が順調に進んでいる。

箱根シンポジウムの準備状況

議 題：

1. 太陽電波研究の将来計画について

現在太陽の研究は、陽光衛星および電波ヘリオグラフを用いた観測により、大きな成果を上げつつある。一方国立天文台においては、太陽の研究は太陽物理学研究系と電波天文学研究系の2つに分かれており、専門委員会もそれぞれ光学赤外太陽専門委員会と電波天文学専門委員会に分かれている。

電波ヘリオグラフやフレア望遠鏡などの新しい装置の共同利用、次期太陽観測衛星計画など、国立天文台における太陽研究を統一的に進めるために改組を含めた議論が必要である。この議論を中心となって進める人を指名した。田原、稲谷、石黒、太陽電波関係者、太陽物理関係者。今後国立天文台内での議論（総合計画委員会、教授会議等）や、運営協議会での議論を起こしていく。

2. 宇宙電波の諸計画について

今後10年以内の野辺山における電波天文研究・装置の計画と人員計画について議論した。

45m。NMA→LMA（海外設置か）。VLBI。

衛星（サブミリ、VLBI、太陽）、等々。

3. LMA小委員会の設置

委員会は長期任期（4年）が必要であるため、2年任期である専門委員会の小委員会とはせず、宇宙電波観測所が委嘱する委員会とすることとした。

メンバーを承認した。

所外：池内、岡村、海部、北村、芝井、谷口、田原、近田、林、福井

所内：石黒、稲谷、川口（則）、川辺、中井、森田

開催は年1回程度とし、ADVISORY COMMITTEE の性格を持つ。

4. NROの人事

諮問委員会

最近の人事：近田（光学赤外教授）、森田（助教授昇格）、山口（技官新任）

今後予測される人事：近田のポスト、森本退官後のポスト、サブミリ波部門関係

現在進行中の人事：助手1名

研究員 次回より国立天文台として一括して公募する。野辺山枠は5名。

今まで通り電波天文学専門委員会の人選作業を進められるよう運営協議会に提案する。

人事一般 野辺山としてVSOPシフトを敷く。

教授人事については運営協議会主導で行われる。

公募で内部昇格となった場合の空きポストの取扱について。

5. 共同利用／レフリー制度

・長期共同利用 2～3年間は国内のみとする。その後見直しを行う。

- ・プライオリティの問題 最終的には観測者のモラルの問題だが、NROはレフェリー制度に則り、それを運用する立場がある。

・一般共同利用のレフリー制度について

プログラム委員会から改革案(3名→5名、総合判定のみ、コメントは任意)が提案され、45m第2次募集から実行したいとの提案があったが、議論・資料・作業等が不十分であるので再度プログラム委員会を開催して決めてもらうこととした。

6. NROと軍事研究

野辺山では天文学における非軍事の原則について議論を重ねてきており、それが文書化(英文化)された。字句については多少修正が必要であるが考え方については合意されたので、今後具体的問題について適用していく。今後国立天文台全体、及び他の機関にも拡げていく。

7. 今期専門委員会のまとめ

45m、干渉計、VLBI、サブミリの計画について議論した。

長期共同利用が動き出したが、マルチビームが実現した場合に再検討が必要。

太陽関係の研究の進め方について議論した。

将来計画と人事構想について議論した。

8. その他

45m用ドームの検討の進捗状況

ビッグプロジェクトとして位置付けが必要である。

V. 宇電懇シンポのお知らせ

日時: 10月28-30日の2泊3日

場所: 伊豆湯ヶ島温泉木太刀荘(静岡県田方郡天城湯ヶ島町湯ヶ島)

詳細については、別紙「宇宙電波懇談会のご案内」の通りです。

宇電懇および今後の日本の電波天文学のあり方について、幅広い層の意見を集め、討論したいと考えています。特に、次の時代の担い手である大学院生をはじめとする若い人々に積極的に参加していただきたいと思います。

VI. 事務局からのお知らせ

・宇電懇会費について

前号の宇電懇ニュースでもお願いしましたように、会費を例年どおり2年分(2,000円)お納めいただきたいと思います。まだの方は、至急お近くの郵便局で下記の口座まで振り込んでいただきますようお願いいたします。なお、会費納入状況についてご不明な点がございましたら、宇電懇事務局(052-781-6769)までお問い合わせ下さい。

口座番号: 名古屋 5-66724

加入者名: 宇電懇事務局

宇宙電波懇談会事務局

〒464-01 名古屋市千種区不老町

小川英夫

名古屋大学理学部物理学教室A研

福井康雄

Tel: 052-781-5111(内6657) または 052-781-6769(直通)

水野 亮

Fax: 052-782-0647

宇宙電波懇談会のご案内

現在、日本の電波天文学の世界は、大きな曲がり角にきています。

われわれは、これまでに、野辺山宇宙電波観測所を設立し、45 m鏡、ミリ波干渉計、電波ヘリオグラフを建設して、ある程度の科学的成果を産み出してきました。これらは、宇宙電波懇談会を通じて主張された電波天文学者の総意の結実です。性能的には世界に伍する巨大装置の建設を成し遂げたいま、宇電懇がその存在意義を全うした、もっといえば、一つの時代が終わったともいえましょう。

野辺山宇宙電波観測所という大型装置をもつ設備を作って10年たったいま、われわれは、次の大型装置計画 LMA 建設へと向かおうとしています。しかし、時代が、野辺山宇宙電波観測所を設立したときとは大きく変化しています。ほとんど何もない無の状態から新しいものを創出したときとは違い、電波天文学や天文学の世界だけでなく、社会の多くの人々が、われわれの学問の成果についてきびしい目を向けるようになり、日本の電波天文学界としての実力が世に問われる時代となっています。われわれの実力をいかに強力なものにするかが、LMA のような大規模計画の成否、すなわち、我々がさらに新しいものを生み出すことができるか否かのかぎを握っているといっても過言ではないでしょう。

こういった時代の曲がり角に立ったいまは、宇電懇を再構築し、新たな性格付けをすべきときです。とくに、現在大学院生である人々をはじめ、若い人々が、日本の天文学の方向付けをし、LMA 建設という大きな仕事の中心を担うべき人々であることは、論を待ちません。

こういった現状をかんがみ、今回の宇宙電波懇談会では、宇電懇・日本の電波天文学の将来について語り合おうと考えています。とくに、大学院生をはじめとする若い人々が、日本の電波天文学のあり方について自由に議論し、新たな概念を築く機会にしたいと考えています。

参加については、別紙に記入の上、10月9日までに、石附の方へ、FAXしていただくようお願いします。参加者には、日本の電波天文学の将来について、あるいは、宇電懇の将来についてという題で話題提供の準備をお願いしたいと思います。話題提供を希望されるかたは、その旨を記入してください。

日時：10月28-30日の2泊3日

場所：伊豆湯ヶ島温泉木太刀荘(静岡県田方郡天城湯ヶ島町湯ヶ島)

世話人：石附澄夫(国立天文台野辺山 Phone:0267-63-4391 FAX:0267-98-2884)

長谷川哲夫(東大理学部センター)

水野亮(名大A研)

宇宙電波懇談会出欠票

氏名：

所属：

宇宙電波懇談会に ☐ 参加します ☐ 参加しません

話題提供を ☐ 希望します ☐ 希望しません

以下、希望者のみ記入

テーマ： ☐ 日本の電波天文学の将来について

☐ 宇電懇の将来について

通信欄